

L01b 流星電波観測国際プロジェクトによる流星群活動モニター

小川宏 (筑波大・自然)、豊増伸治 (みさと天文台)、大西浩次 (長野高専)、前川公男 (福井高専)、
矢口徳之 (AMRO-NET)

流星電波観測は昼夜関係なく天候にも左右されず、さらに容易に自動観測を行えるため、流星群活動をモニターすることにおいては適した観測方法といえる。また、世界の流星電波観測ネットワークを構築することで、ほぼリアルタイムの流星群活動モニターを構築することができる。「流星電波観測国際プロジェクト」は、流星群活動をモニターし、その全容解明を行うことを目的とした国際プロジェクトである。2001年より開始されたこのプロジェクトは、2003年には23カ国176地点にも達し、北半球はほぼ全休をカバーしている事になる。データ集計の際は世界中のデータを統合するわけだが、観測機材や観測条件の面で各サイトの補正は難しいが、相対値を用いて、多くのデータを統合することによって流星群活動の評価を可能にした。これまでもしし座流星群をはじめとして多くの主要流星群でモニターならびに全容解明が行われてきた。本発表では、データの統合方法・結果そしてその有効性などを発表する。